深い学びの実現に向けた学習過程の工夫

～数学科を軸とした各教科における見方・考え方を働かせた授業づくりを通して～

四万十市立中村中学校
校内研修だより
ＮＯ．２
２０２１.７.１４

今年度は、「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト『実践研究協働校事業』の指定を受けています。

今回の授業研究会では、前回の教材研究会での学びを踏まえ、より信頼性・客観性を高めることを意図した言語活動の設定を検討しました。そこで「15歳の主張in中村中学校」と題し、15歳の今だからこそ伝えたいと思うことを、相手を決め、その相手に納得してもらうための信頼性・客観性のある情報を根拠として示す学習になるよう設定して行いました。

「実践研究協働校事業『授業研究会Ⅰ』」

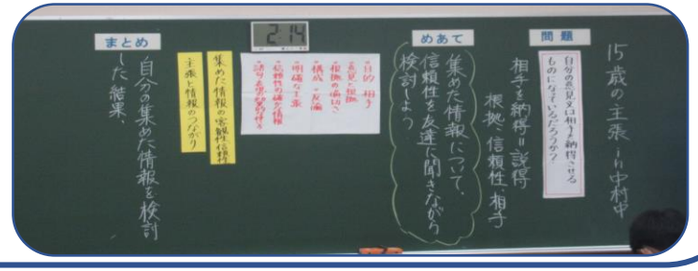
本時の授業での

PointⅠ「信頼性・客観性のある情報の取捨選択」

- 根拠となる情報は十分集まっているかの検討
- 根拠となる情報がより信頼性の高い客観性のある情報であったかの検討
- 検討後の情報の再収集や情報の整理

PointⅡ「根拠とつながる情報であるか」

- 集めた情報が自分の主張の根拠となる情報として適切か
- 適切か否かを基に情報の整理や構成の検討



◇研究協議より◇

○先生たちの動画でポイントを示したことによって信頼性については生徒は意識できていたのではないか。
○各生徒がばらばらのテーマであったため、意見交流が難しかったのではないか。
　→同じテーマ同士やテーマを限定していれば話し合いがスムーズにできたのではないか。
　→クロムブックを活用することで他者の意見が見られ、意見交流に繋げることができたのではないか。
○信頼性は公的機関であるからだけで判断してよいものなのか、もっと「信頼性」とは「客観性」とはどのようなことかを教師が押さえておくことが大事であったのではないか。
○自分の主張につながる根拠かどうかの検討まではできていなかったのではないか。
　→教師側が生徒のつぶやきや話し合いを拾い上げながら進めていけば、意識させることができたのではないか。

小中学校課　濱田美貴指導主事より

(1) 評価について
- 一人一人が「何をどう学んでいるか」を見取ることが大事であり、そのためには「まとめ」「振り返り」に何を書かせるかが重要である。

(2)未知のことへの対応力
- 賛否両論あるが、テーマがどのような内容であってもそれに対して、意見を求められたり、考えたりする場面は今後の生きて働く力につながっていくものである。そのような力も身に付けさせていきたい。

(3)系統性・教科等横断
- 小学校からの学びを確実に繋げていくことが大切である。
- 他教科でも様々な思考法につなげていくことが大事であり、多様な人を説得するために多様な見方ができるようにする。また、教科の見方・考え方を存分に働かせることができるように教科等横断的なつながりを図る。

国語科より

小学校で働かせてきた見方・考え方を生徒に更に意識させることで、学びが積み重なっていることを実感させたい。

他教科との関連を考え、もっと多面的、多角的に信頼性や客観性を考えさせられるよう意識して単元を構想していきたい。

クロムブックの使い方も検討し、より効果的な意見交流に活用できるようにしていきたい。